



きよ もと ひで やす
清 元 秀 泰 (50歳)

現職
国立大学法人東北大学
東北メディカル・メガバンク機構
教授

過疎地および被災地の地域医療支援と長期健康調査の普及啓発

業績

日本の僻地医療では慢性的な医療人材不足であり、対応策として遠隔医療や医療情報統合化等が取り入れ始めている。さらに東日本大震災によって東北地方の地域医療崩壊は深刻となり早急な対策も急務である。

本活動では、瀬戸内地域における地域医療支援と住民啓蒙活動の経験を活かし、東日本大震災の被災地において住民への長期健康調査の充実と医療復興を目指している。被災地の医療復興と未来の個別化医療の実現を目的として設立された東北メディカル・メガバンク機構の地域医療支援部門長として、自治体や医療機関と連携しながら最先端医療と地域医療を相補する循環型医師派遣制度を実行した。派遣医師に遠隔支援を行いつつ、住民の健康意識向上のために個別相談会や健康講和会を開催し、地域保健活動を展開している。

本活動により、慢性的医師不足により医療崩壊が懸念された南三陸や気仙沼等の地域医療支援が充実し、未来医療を創造するコホート調査も円滑に遂行されている。これらの取り組みは全国の医療過疎地域においても新たなモデル事業として注目され、全人的医療を志す優秀な医師の確保が可能となり、被災地の地域医療維持と地域住民の健康増進に寄与している。

主要論文：「ひと・命・心 3.11 から学んだ医療現場の脆弱性と想定外対応能力」東日本大震災を分析する Vol.2、第一版・第一刷、明石書店、p40-54, 2013年6月発表
「遺伝子・組織バンクと医療情報の電子化」被災地から最先端創薬を目指して～東北メディカル・メガバンク機構の挑戦～」、臨床薬理 Jpn J Clin Pharmacol Ther Vol 44(2)、p175-176, 2013年2月発表